

# NEWSLETTER No. 32



**CWS  
JAPAN**

Church World Service

2019年3月号

## 8年目の3.11を迎えて

今年で東日本大震災から8年目を迎えました。きっとそれぞれ捉え方や過ごし方は違う日だと思いますが、CWSはあの災害が無ければ現在日本にオフィスを構えていないでしょうし、2011年3月にアフガニスタンから日本へ来た時の事が昨日の事のように思います。毎年3月には東日本大震災関連の行事が各地にあります。今年には仙台市主催の「仙台防災未来フォーラム」、そして世界宗教者平和会議日本委員会主催の「震災から9年目をむかえる宗教者復興会合」で登壇して参りました。

「仙台防災未来フォーラム」では、昨年末に改訂された人道支援におけるスフィア基準の発表を行いました。熊本地震に関連しNHKの「おはよう日本」でも取り上げられた事もあり、緊急人道支援における国際基準への関心が高まっています。基準が無いと、何を目標に活動を展開するのか、またたくさんの支援団体が入ってきた際の活動の効果性が見極めなどが難しいからです。CWS Japanは支援の質とアカウントビリティ向上ネットワーク(JQAN)の代表も務めていて、スフィア基準の改訂にも執筆者として関わってきました。災害現場で緊急支援の活動を展開するからこそ、教訓を政策や制度に関する提言を行う事が出来るのだと信じています。また、そのような緊急支援活動を可能にする皆様方からのご寄付・ご支援にいつも心より感謝しております。

「震災から9年目をむかえる宗教者復興会合」では、世界各地で悪化している災害リスクの現状や、戦後最悪の人道危機を迎えている今日において、宗教者や信仰に根ざした団体が果たす役割についての発表を行いました。各地の宗教施設の避難所としての役割や、複数の宗派による合同葬儀や宗教者による臨床心理士の役割などは日本でも取り組まれた事例ですが、国際会議などでも共有出来るものも多く、世界と繋が

る重要性についても発信しました。特に信仰心が強い国では宗教者の果たす役割が大きく、例えば西アフリカで発生したエボラ熱危機では、地元の宗教者が病気への正しい理解や感染ルート of の適切な把握などを周知する役割を担いました。また、アフガニスタンでは地元の宗教者が災害リスクを事前に周知する役割を果たすようになりました。甚大な被災を防ぐ為に、まだまだ出来ることがたくさんあり、それを世界規模で共有し共に歩むことが現在の世界では求められていると思います。

過去の被災から学び、将来の被災を減らす。私達が次世代に少しでも安全な社会を残していけるように、引き続きCWS Japanでは積極的に防災・減災に取り組んで参ります。

(文：事務局長 小美野 剛)

## Affected Areas of Central Sulawesi Earthquake Visited

CWS Japan visited some of the affected villages of the 7.5 magnitude earthquake that shook the districts of Sigi, Donggala and Palu in the island of Sulawesi on September 28 last year. More than 4500 people were killed and over 35,000 houses were destroyed or heavily damaged because of this disaster. The earthquake was followed by Tsunami and massive liquefactions and landslides. While the scientists had been warning about the possibility of this fatal combination of disasters in the area for several years, the people were completely unaware of the risks. CWS Indonesia has been distributing water in the camps and remote areas since right after the earthquake. At present they are distributing water everyday to

about 5000 families in 51 locations by as many as 16 trucks.

CWS Japan has responded to this emergency by providing 220 Temporary/Transitional Shelters (T-Shelter) with support from Japan Platform. The affected families of 6 villages in Sigi district were given the necessary building materials like coconut wood and partition boards based on a simple design, and were also given technical training and support for the construction. T-Shelters are for housing displaced families during the recovery phase till they can build a permanent house, and are required to be strong enough to be used for 2 to 5 years. Some families have already moved in the T-Shelters, and they expressed their relief and gratitude when CWSJ members visited their houses.

The members also visited the office of Global Shelter Cluster in Palu, where the officials explained the latest updates on shelter needs.

(文：Research Coordinator Sangita Das)



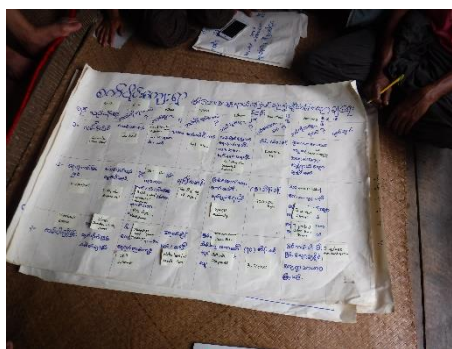
CWSJ members visiting the construction site of a T-Shelter in Ombo village in the district of Donggala (March 17, 2019)

## ミャンマー水害常襲地におけるコミュニティ生活道路改善プロジェクト開始

昨年、外務省NGO事業補助金を得て、ミャンマーエーヤワディー管区マウビン・タウンシップの農村で実施したニーズ調査結果をもとに助成金応募していたところ、この度日本国際協力財団から助成いただくことになりました。昨年のニュースレターでもご報告していましたが、同地域では、過去3年間、味の素財団の助成を受け、乳幼児のための栄養改善プロジェクトを行ってきました。ところが近年の気候変動の影響を受け、同地域には毎年洪水が常襲するようになり、私達の支援活動（家庭菜園、養鶏）にも悪影響を及ぼしていました。

そこで、村の防災委員会とCWSミャンマーとの協働により、村の防災計画が作られ、雨期に冠水して歩行困難になる生活道路を修復する提案が出されました。この住民からの要望を受け、この度CWS JapanはCWS Myanmarと協働し、生活道路修復事業を実施することになりました。4月には早速、再び土木専門家と現地入りします。本事業進捗については、今後もCWSニュースレターにて随時ご報告いたします。

(文：プログラムマネージャー 牧 由希子)



村の防災委員会が作ったアクションプラン



CWS members at the office of Global Shelter Cluster in Palu (March 18, 2019)



これから住民の力で修復していくコミュニティの生活道路